

私たちができること
 これらからわかること、できることは何でしょうか。まず、地球温暖化は、これからの問題ではなく、今ここにある問題なのだ、ということ。
 そして、私たち自身が、温室効果ガスを減らすよう努力をしなければならないということ。その一方で、私たちの普段の生活や経済活動の中で、温室効果ガスの量を減らす努力をすることで、地球温暖化を防ぐことが可能です。
 市役所でも、「南島原市温暖化対策実行計画（計画期間：平成20年～24年）」を策定し、職員一丸となって温室効果ガス削減に向け取り組んでいます。
 温暖化問題にすでに取り組んでいる人も、これから人も、節電や節水などの基本的な取り組み、急発進や急停車などを行わない「エコドライブ」など、身の回りの小さなことから結構ですので、市民皆さんの協力をお願いします。

地球を冷やせ ~STOP 地球温暖化~

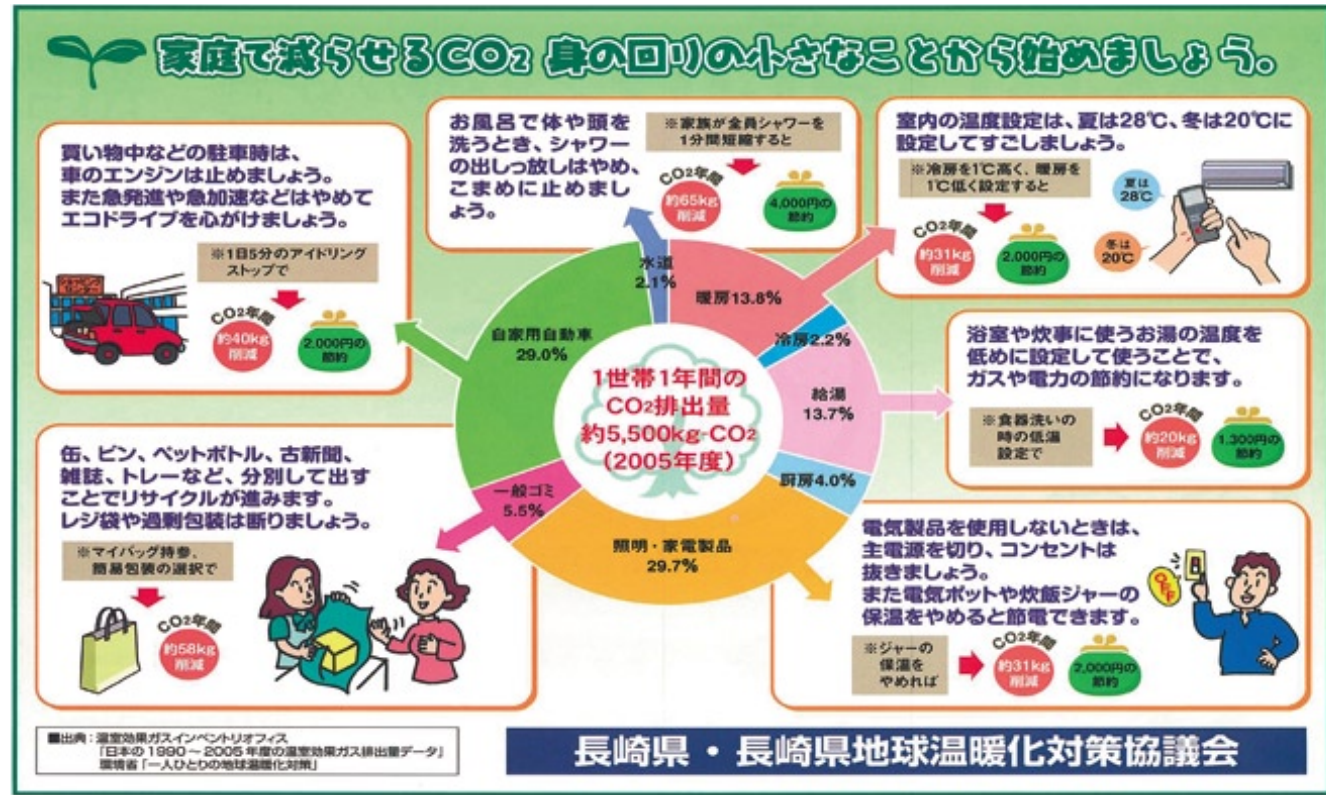
地域を守れ

ごみとリサイクル



6月5日に市内各地で行われた市民清掃。皆さんの努力が、美しいふるさとの原動力です。

市では、「循環型社会形成の推進」「3R運動の推進」「地球温暖化防止」などの取り組みを市民の皆さんと一体となって実施しています。今月は、私たちの最も身近で切実な問題「環境問題」を、ごみ問題と地球温暖化問題の二つの側面から特集します。



進む地球温暖化

私たちにできること

地球温暖化って？
 21世紀最大の環境問題と言われる地球温暖化。二酸化炭素(CO2)などの「温室効果ガス」の増加が主な理由です。この地球温暖化をテレビの向こう側の出来事だと思っていないですか。

身の回りにも

島原雲仙農業協同組合東部基幹営農センターの伯川儀平(はくせん)課長によると、「以前と比較し、落葉果樹の着果率が低下しており、収量に影響が出ている」とのこと。これは、「冬の低温の期間(低温遭遇時間)が少ない」温暖化が進んでいる」からだそうです。私たちの住む南島原市も温暖化の影響を直接受けているのです。



美しい花の咲く春の喜びも、厳しい寒さがあってこそ。

また、島原半島南部漁業協同組合の吉田重紀彦(よしだ)参事によると「水温上昇の影響で、海底では石灰藻(せっかいそう)が増え「藻場」が減少している」とのこと。藻場とは、魚の産卵場となる藻が生える海底のことで、石灰藻で覆われた海底では、魚は産卵することができません。陸からはわかりませんが、海の底でもまた、刻々と問題が広がっているのです。



限られた条件下にしか生息しないリソサムニューム礁(※)も、水温上昇の影響が心配されます。

市民の取り組み

南島原市の地球温暖化対策の基本計画「南島原市地球温暖化防止行動計画」を実践している個人と団体は50。取り組み項目は223項目にも及びます。

例えば、島原鉄道(株)では、適正な空調設備の推進やエコドライブの徹底。南島原環境循環ネットワークでは、生ごみの減量化から堆肥化への取り組み。上原子供会(西有家町)では、マイバッグ運動、徒歩や自転車の移動推進を実施しました。

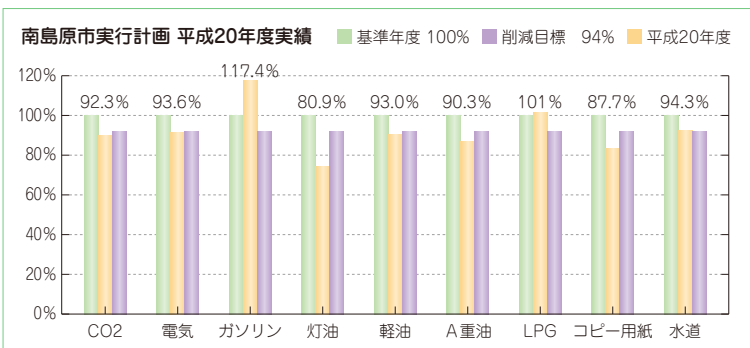
こうした取り組みの一つひとつが、少しずつ皆さんの意識と環境の改善につながり、ひいては、温暖化を防ぐのではないかと考えています。本年度も実践していただけを取り組みを募集していますので、詳細はお問い合わせください。

「南島原市地球温暖化防止行動計画」とは？

市民、関係団体、行政などで構成される「南島原市地球温暖化防止対策協議会」において、平成20年3月に策定された、本市の地球温暖化防止対策を推進するうえでの基本計画です。

市役所の取り組み

地球温暖化対策には、市役所でも積極的に取り組んでいます。全体としての削減目標を達成したほか、個別項目のほとんどを達成しました。これからも、目標達成に向けて、職員一丸となって取り組んでいきます。



※ガソリン、LPG、水道が未達成。特にガソリンは、昨年からの連続で未達成となり、課題を残したが、電気使用量の大幅削減により、目標達成となった。

南有馬小学校 グラウンドの芝生化活動

7月12日、南有馬小学校グラウンドの芝生化が、同校PTA、市サッカー協会の協力で行われました。

当日は、保護者だけでなく近隣の住民も参加。「学校づくり」の枠を超えた「地域づくり」を、楽しみながら行いました。

すでに市内の私立保育園の一部では、園庭の芝生化に取り組んでいます。3000平方メートルという広大な敷地の芝生化は、市内で初めて。県下の公立小中学校としても初めての取り組みです。



→現在は点々と植えられた芝生も、10月ごろには、グラウンド一面が緑になること。楽しみです。